

町民が集い交わり、ともに『学び・楽しむ家』

図書館と公民館の融合

- 新しい生涯学習センターは、図書館と公民館が併設されることを機会に、ふたつの施設が単に複合するのではなく、図書館と公民館の機能が融合した施設とし、町民の『学び・楽しむ家』となることを目指します。

図書館は「学び・楽しむ家」のリビングルーム

- 物語や知識・情報を提供する図書館を施設の中心に据えて、町民みんなが集まり、寛ぎ、学び、楽しむ、リビングルームに位置付けます。
- 図書館の開架スペースの周囲に公民館機能を配置し、リビングルームから様々な活動が見える「学び・楽しむ家」を目指します。

新しいまちづくりのベンチマーク

- 南三陸の豊かな海を象徴する海猫のように、愛嬌のある顔立ちとつばさをひろげて飛び立つようなイメージの「学び・楽しむ家」とし、まちづくりのベンチマークとなることを目指します。



まちのシンボルとなる外観のイメージ：町を南北に縦断する国道から図書館の様子が見える

テーマ① 南三陸町の地域状況、敷地の状況を考慮した敷地利用計画案と建物計画案

地域状況に呼応した施設



復興するまちのシンボル

- 敷地は旧市街地を見下ろす上の山の北側にあり、志津川地区の新しく誕生するまちの中心市街地の中央に位置づきます。しかも、町内を縦断する幹線道路・国道45号線に面し、住宅地と業務地の境目に位置します。
- 市街地形成や道路の線形などの都市計画上の要素を、外観を構成する屋根や壁面に反映させます。豊かな海を指し示す建物外観を創り出し、復興を目指す南三陸町のシンボルとなることを目指します。
- 塩害や寒冷地であることを考慮において、永くシンボルであり続けるためにシンプルな形態とします。



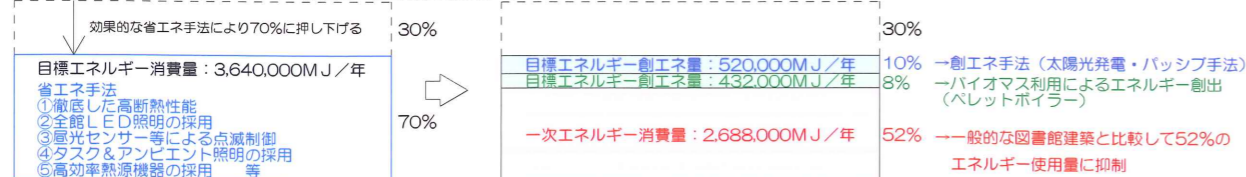
中央団地から鳥瞰するイメージ：志津川湾を望むアイコンとなる建物

震災を教訓としたエネルギーの捉え方

地産地消のエネルギー環境の構築

- 震災時のエネルギー供給の難しさを教訓に、エネルギーの『地産地消』を目指します。本施設及び地域から取得・搬送できるエネルギーを最大限活用することを目指し、自然採光・通風・太陽光・太陽熱・井水・ペレットボイラーを基本エネルギーとします。
- 汚水、雑排水は合併処理浄化槽での処理後、若干の上水を加えて、WCの洗浄水として再利用し、リサイクルします。

▽同規模・同用途の一般的なエネルギー消費量：5,200,000MJ/年



敷地状況への対応

北側住宅地に開かれた施設

- 敷地は、北側の壇上に開発される住宅地の要となる、地域の中心に相応しい場所にあります。国道よりも高く設定され、北側住宅地の進入路から出入りすることになります。一方、南側に上の山、西側には小学校が建つ高台があることから、日照が得られるのは午前中に限定されます。
- 建物は、以下の理由から国道に寄せて配置します。
 - a) 駐車場の見通しを良くし、イベントスペースとしても活用できる
 - b) 日照を確保し、西側斜面との距離を確保して通風も確保する



テーマ② 本構想に定める基本方針及び導入する機能を解釈し、住民等が利用しやすい施設計画案

町民が集まりやすく、利用しやすい施設

2階建ての建物の中央にだんだんホール

- 施設は2階建てとして、子どもから高齢者まで利用しやすい施設とします。
- 建物中央に、多目的ホールと連続する階段状のホールを設けます。上部を吹き抜けとして、館内のシンボリックな空間とするとともに、どこにいても館内全体が見通せるように構成し、交流スペースとして設定します。
- 2階廊下はホールを囲むように設けます。多目的ホールを閉じたホール、だんだんホールを開かれた集会スペースとし、多彩な活動ができる場を用意します。



日常と防災機能の両立

- 「日常的に使用する設備」を「災害時でも使用できる設備」とします。防災に特化した機器を最小化することで災害時にも建物機能が維持できるようにするとともに、建設コストを低減します。
- 本施設は図書館機能と公民館機能が複合することから、消防設備用の非常用電源の設置が必要となる可能性があります。この非常用電源を災害時のエネルギー源とすることを前提に、その容量を計画します。

図書館をリビングルームにする

- 図書館は入口近くに設け、だんだんホールと一体的に構成します。
- 誰もが気軽に立ち寄り、「本を読んだり、勉強したり、寛いだりできる」リビングルームとして設えます。

オープンテラスと連続する公民館各室

- 公民館の機能はだんだんホールを囲むようにして、駐車場に面して設けます。
- だんだんホールに面する各室の仕切りはガラス面として、中での活動の様子が館内に公開されるようにします。
- 工作工房や調理室は1階に設けて、駐車場から直接材料等の搬入ができるようにします。催し物の際には建物側の駐車スペースをテラスとし、内外の連続性を創ります。



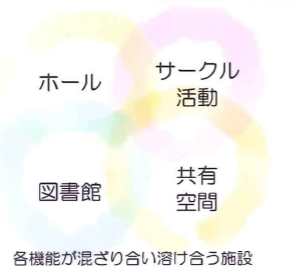
国道45号線の北方向から鳥瞰したイメージ：志津川湾に向かって飛び立つ鳥のような屋根

テーマ③ 複合施設であることのメリットを生かしたコンパクトな施設計画

コンパクトな施設

シンプルな正方形

- 建物の平面形状は、同一面積で外壁面の長さが最小になる正方形を基本として、可能な限りコンパクトな建物とします。



複合のメリット①

図書館と公民館を融合・一体化

館内の中心となる、リビングルームとしての図書館

- 図書館の開架スペースを、町民がいつでも気軽に立ち寄り、寛ぐことのできる「リビングルーム」と位置づけ、館内の中心空間とします。図書館の周囲に公民館機能を配置し、図書館と公民館が融合し、一体化した施設とします。
- 室と室をつなぐだけの通路を最小限にして、空間を有効に活用します。

図書館資料の有効活用

- 調理教室・工作工房でのレシピ本・テキストの活用、会議室等でのプロジェクターを使ったWEB情報の活用など、公民館機能各室での図書館の資料の活用をしやすいです。

公民館活動のリビングルームへの公開

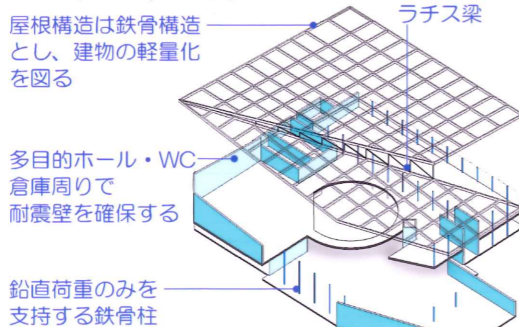
- 公民館機能各室の間仕切りはガラス張りとして、それぞれの活動がリビングルームに公開されるようにします。それによって、何気なく訪れた人への興味・関心を誘い、新たな交流を誘発する空間とします。

テーマ④ 将来の利用の変化にも対応可能な施設計画

高い耐震性能を確保とフレキシビリティの両立

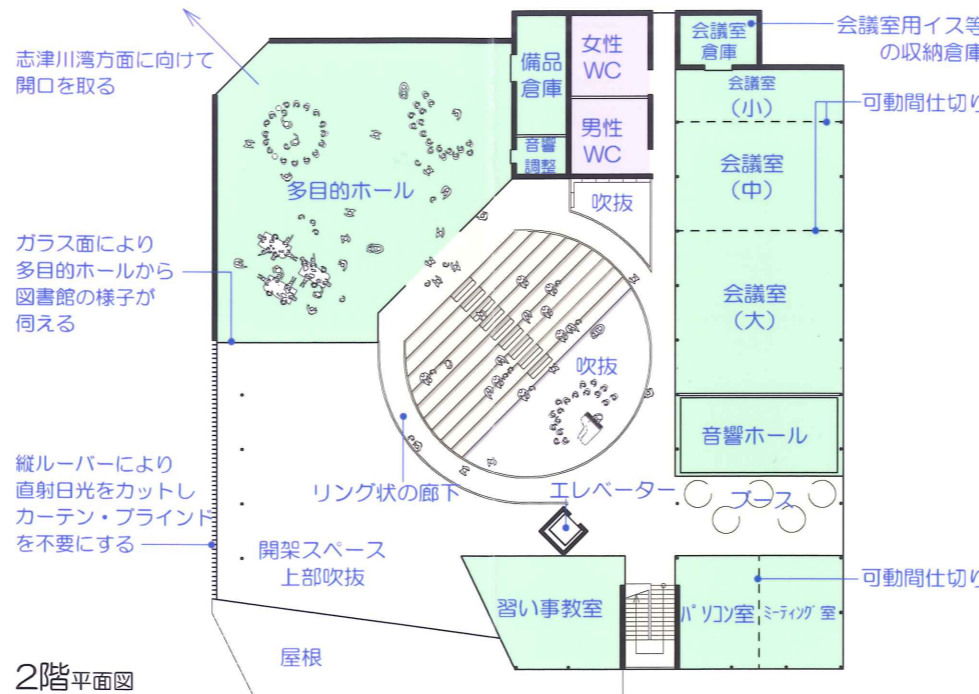
高い耐震性能の確保

- 2階床版までを鉄筋コンクリート造とし、調理・工房の気密性、倉庫の耐火性を確保し、屋根面を鉄骨造として建物全体の軽量化を図ります。
- 耐震壁、耐震ブレースをバランスよく配置して地震時の建物の変形を抑制し、震災を最小限にする建物とします。

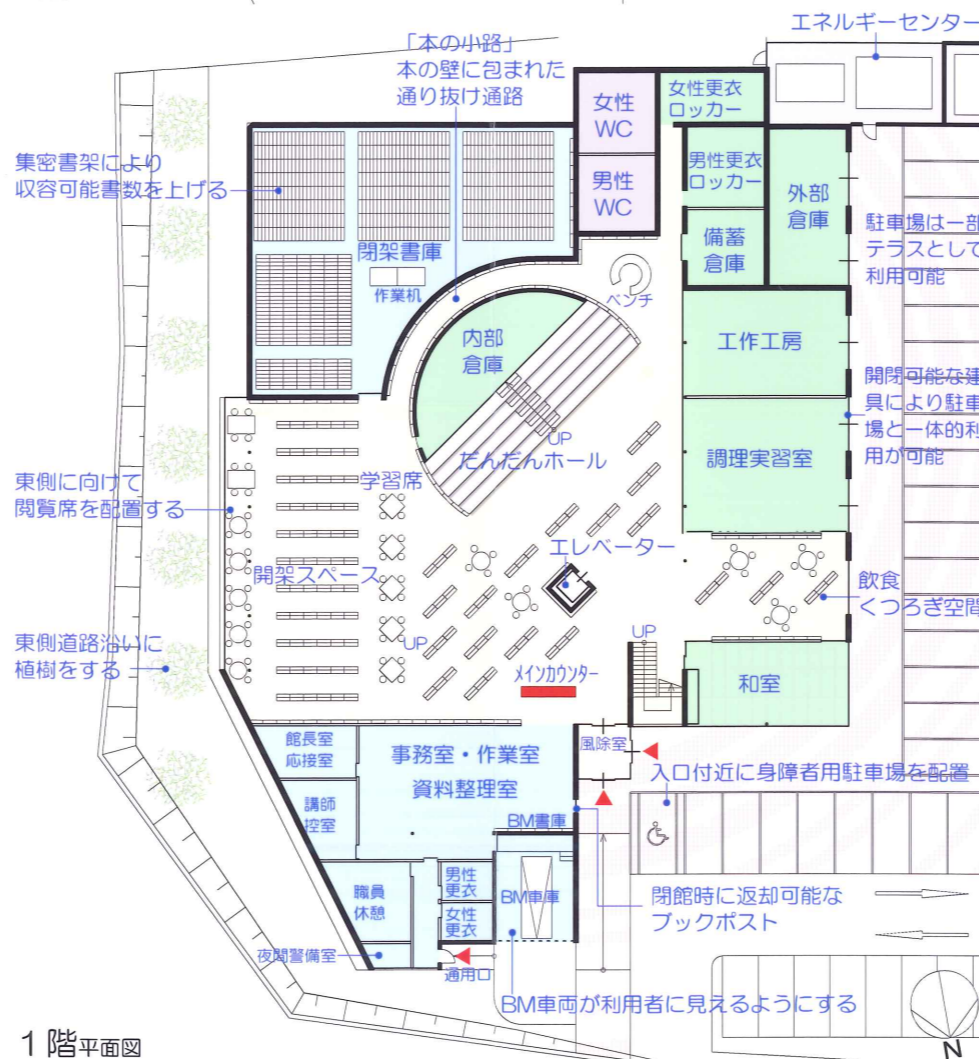


フレキシブルな内部空間

- 耐震壁・耐震ブレースはWC・倉庫等の閉じた空間と建物外周に設け、内部の構造壁を排除し将来の改造の容易性を確保します。
- 屋根構造を鉄骨造とすることによって大スパンを可能にし、内部空間の柱の数も最小限にしてレイアウト変更の融通性を確保します。



2階平面図



1階平面図

複合のメリット②

どこにいても館内の様子がわかる一体的な空間

- 内部空間は、連続性を重視して一体的な空間とします。内装仕上げは地場産の木材を活用して、暖かく親しみやすい雰囲気をつくります。

多目的ホール

- 東南の角に開口部を設けて、多目的ホール正面に志津川湾を臨めるようにします。また、音楽・軽運動の利用に配慮して、防音性能を確保します。

だんだんホール

- 多目的ホールと連続するだんだんホールは、イベントやレクチャーのスペースとしても活用できます。
- 階段が観覧席になるだけでなく、2階の廊下や多目的ホールも立見席になります。



閉架書庫

- 重量のかさむ閉架書庫は1階に設けて、構造体への負担を軽減します。また、図書館と連続する場所に設けることで、公開書庫としての活用も可能にします。

図書館・開架スペース

- 2層分の天井高さを確保し、リビングルームに相応しい雰囲気を作り出します。
- 周辺地域を見渡せる場所に閲覧席を設けて、寛いだ空間を演出します。



調理実習室・工作工房

- 駐車場に面して、直接搬入搬出を可能にし、催し物の際には内外の連続性を創ります。

玄関・管理スペース

- 玄関は歩行者が北側道路から直接出入りできる位置に設けます。管理スペースはサービスがしやすいように玄関に近い位置に設けます。また、図書館のサービスデスクと公民館の受付窓口を兼用します。



テーマ⑤ 維持管理コストの低減に配慮した施設計画

建物の長寿命化

外装の長寿命化

- 屋根は単純な片流れ屋根として漏水の可能性を最小化します。また、軒樋をなくして劣化・破損をなくします。さらに、屋根には着色ステンレス板を用いて塩害や腐食に強い建物とします。軒の出をなくして軒天井の腐食をなくします。

機能の長寿命化

- 内部空間の柱の数を最小限にし、間仕切壁は乾式工法として、将来の改造の容易性を確保し、機能の長寿命化を図ります。

再生可能エネルギーの活用

- 高窓を設けて館内全体に自然採光を、周囲に余地を設けて通風を確保します。
- 太陽光熱、井水、ペレットボイラー、浄化槽処理水再利用等を採用します。

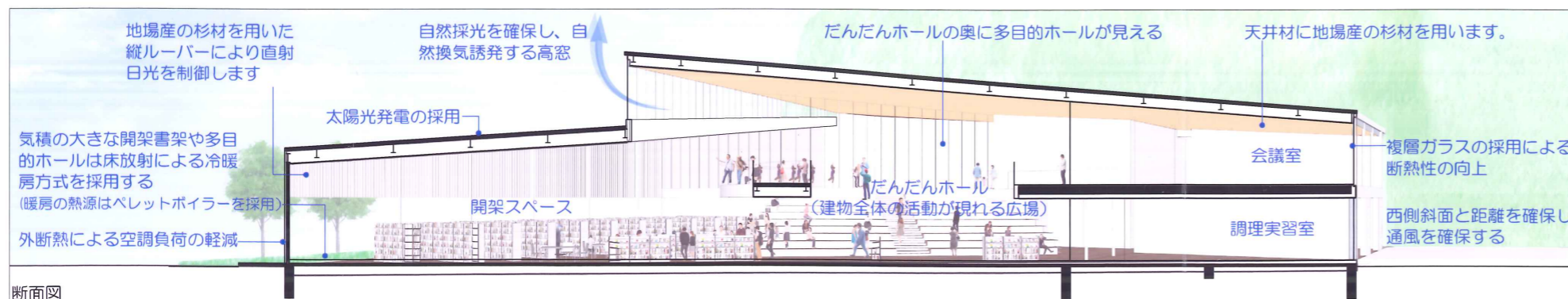
建築計画と設備計画の高い整合性

エネルギーセンターの形成

- エネルギー供給設備を敷地南西端に半屋外の別棟で計画し、地下トレンチで本体へ供給します。設備集約によってメンテナンス性、拡張性を高め、半屋外とすることで換気設備等余分な設備を省略します。

室の配置・用途と整合性の高い設備計画

- 気積の大きな開架スペースや多目的ホールは東側として、穏やかな熱環境を可能にします。比較的小さな室は、夏季の西日の影響の高い西側に配置して個別制御空調とし、効率のよい制御を可能にして、エネルギーロスを低減します。



断面図